

## 圏外のアンテナ

[もっと日本一]の巻

大きな声ではいえないが、「聞き耳」はわたしの特技の一つ。例えば食事でお店に入ったら、店中のお客さん全員の注文を、いつだって何喰わぬ顔で聞いている。

さて、そんな「聞き耳女」が、先々週末、東京国際フォーラムで開かれた「アートフェア東京2018」に出掛けていった。

これは、アジアで最も歴史のあるアートの即売市で、国内外164のギャラリーが出展。聞こえてくる言語も、日本語、英語、フランス語、中国語など多国籍。

並んでいるのは、北斎の版画や明治時代の象眼細工から、液晶モニターにアクリル蛍光絵の具を塗りつけたような、今をときめく現代アートまで、多種多彩。

美術館とはひと味違う、売らんかな買わんかなの熱気が、人々の沸点を押し上げているようだった。

会場をうろつきながら、あるブースの前を通ると、ドヤ声が聞こえてきた。

「この子は日本一になりますよ！」おそらくやり手の画商なのだろう。身なりのいいコレクター相手に、若手アーティストを猛烈に売り込んでいる。

へえ〜と、思わず立ち止まって、聞き耳を立てていると、画商は続けた。

「10年後には、もっと日本一になりますから！」

えーっ！ 画商の熱量と比例するように、「聞き耳女」のボルテージもいきなりマックスに。もっと日本一って、何？ それをいうなら、10年後には世界一、でしょうが。

立場のある人がそんな見だから、日本の家電はガラパゴス化して、世界に通用しなくなったのよ。

イギリス育ちのカズオ・イシグロにノーベル文学賞を持っていかれちゃうのよ。（ちょっと違うか？）

そして、アートよ、お前もか。国際的なイベントに出店している画商の割りに、内向きなよね。世界に対峙していないのね。と、人知れず地団駄を踏んでしまう。

たかが聞き耳、されど聞き耳。

人に自慢できないこの特技は、時々、この国の弱点さえも拾ってしまう。

=2018年3月23日掲載=

